

氏 名	阿南 (根本) 朋恵
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第 1277 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 3 号に該当
学位申請論文タイトル及び掲載誌	
	造血器腫瘍に対するフルダラビン/メルファラン/全身放射線照射を前処置とした同種造血幹細胞移植の治療効果
Thesis	
学位審査委員 (主査) 教授 田丸 淳一	
(副査) 教授 麻生 範雄、教授 椎橋 実智男、准教授 川井 信孝	

## 論文内容の要旨

[背景] 同種造血幹細胞移植は、造血器腫瘍に対する有力な根治療法である。これまで移植前処置は骨髄破壊的前処置 (myeloablative conditioning: MAC)が用いられてきたが、前処置関連の有害事象により高齢者や合併症の多い患者においては適応が難しかった。このような理由から、前処置を軽減することで副作用を軽くし、移植片対白血病効果を重視した骨髄非破壊的前処置 (non-myeloablative conditioning: NMAC)や強度減弱型前処置 (reduced-intensity conditioning: RIC)を用いた移植が行なわれるようになってきた。

[方法] 通常のMACによる前処置が難しい難治性骨髄性腫瘍15症例に対して、フルダラビン (FLU)、メルファラン (MEL)、全身放射線照射 (TBI)によるRICを前処置とした移植を行い、従来のMACによる移植を行った23症例と安全性、有効性を比較検討した。

[結果] 対象症例 38 例中、15 例が RIC、23 例が MAC を前処置として移植を行った。全症例の RIC 群の2年全生存率(Overall survival:OS)は42.3%、MAC 群 43.5%、無イベント生存率(Event free survival:EFS)は RIC 群 36.7%、MAC 群 39.1%であった。生着は RIC 群全症例で認められ、治療関連毒性は RIC 群に比較して MAC 群の方が多く認められた。単変量および多変量解析において OS、EFS とともに RIC 群と MAC 群の間に有意差は認められなかったが、移植時の PS や寛解の有無に関しては有意差が認められた。

[結論] FLU・MEL・TBI (4 Gy)を前処置とした造血幹細胞移植の高齢者または臓器障害を有する骨髄性造血器腫瘍での有効性が認められた。移植時の寛解の有無が予後に関与していると考えられ、今後は OS および EFS の改善を目指した至適なレジメンの検討が望まれる。